

★安心安全な学校方向性ニュース(保護者のみなさまへ)

学校再開に向けての感染症防止対策等について

来週から大阪府の行動基準がレベル1になり、本校でも生徒全員の一斉登校、部活動など、少しずつ通常の生活が戻ってきます。しかしながら、レベル0ではないため、国から出された「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準を守りつつ、日々の教育活動に取り組んでいきます。

レベル1の対策として、

- ・身体的距離の目安は1m、学級内で最大限の間隔を取る
- ・感染リスクの高い教育活動、例えば、長時間近距離で対面形式となるグループワーク、近距離で一斉に大きな声を出す活動、近距離で行う共同制作や実習、密集したり組み合ったり接触したりする運動については、改善策や感染症対策を行った上で可能な範囲で実施することとなっています。

そこで、今後、学校でできる感染症対策として、大きく分けて次の3点を実行します。

- 3つの密（換気のできない密閉空間、多数が集まる密集となる室内、マスクを着用しないので間近で会話をする密接場面）が同時に起こることのないようにする
- 手洗いの励行
- ウイルスが長く付着しやすい所の可能な限りの教職員による消毒・除菌

具体的には、

■ 密閉対策：教室の窓はエアコン使用時も含め換気のために常に2方向開けておきます。

■ 密集対策：教室では生徒間が1mは確保できるよう、呼びかけます。

また、屋外での活動や集会等についても生徒間が1mを保てるよう呼びかけます。

■ 密接対策：可能な限りマスクの着用を促します。ただし、体育の時間や部活動等、運動をする場面では熱中症や呼吸困難等に陥らないために、マスクの着用はつけることも外すことも強要はしません。

市から配付された「モックルガード」を必要な場面で使用します。

■ 手洗い励行：トイレ使用后、昼食前はもちろんのこと、体育等教室移動の前後、部活動の前後等、常に手洗いを励行します。

■ 毎朝の検温・健康観察：これまでどおり、ご家庭での朝の検温を必ずお願いします。（体調不良の場合は無理せずに休ませてください。）

登校後、毎朝、教室で健康観察を実施します。

■ 部活動について

・ 2・3年生については、3か月半にわたり、運動等の活動をしていないことから、6月中は



机に設置できるモックルガード

激しい運動は避け、手洗いの時間も確保しなければならないことから、活動時間を短くし、徐々に元の活動に戻します。1年生については、部活見学から始まり、仮入部期間を経て、入部となります。

- ・ 6月15日から6月いっぱいは5時00分に部活動を終え、5時15分に完全下校となります。
- ・ 部活動については、平日に1日、土日のどちらか1日の休養日を設けます。ただし、試合前は休養日を設けないことがあります。定期テストの1週間前は活動しません。
- ・ 部活動の前後に多数が共用する用具については、顧問等で可能な限りの消毒をしますが、消毒ができないものもありますので、部活動の前後に手洗いを徹底させます。
- ・ 部活動の前に部活顧問による健康観察を実施し、体調不良の場合は、無理をさせず帰宅させます。
- ・ 部室等の使用は特に3つの密を避けるよう注意します。

以上により、子どもたちにも教員にも持続可能な方法で楽しく学校生活を送れるように取り組んでいきたいと考えています。保護者のみなさまには、以下の事項にご協力くださいますようお願いいたします。

保護者のみなさまにご協力いただきたいこと

■朝の検温・健康観察カードの記入などの確認

(お子さん自身が自分でできるようにご指導いただき、発熱や風邪の症状がある場合は、無理をせず休ませてください。)

(学校で発熱や体調不良になった場合に備え、携帯番号の他に、お仕事先、知人宅等、複数の連絡先電話番号等を担任まで届けておいてください。)

■ハンカチ・タオル・水筒等の持参

(他人との共用を絶対に避けるようにおうちでもご指導ください。)

■体育のあるときは、体操服や制服等の着替えを持参

■熱中症の心配な時期でもあります。十分な水分(午前中だけで1ℓ飲み干して追加のお茶を求めに来る生徒が何人かいます。学校でもできる範囲では準備しますが、この時期の体育や部活のある日は2ℓ近くの水分を持たせるようにご協力下さい。)

ウイルスは目に見えないため、様々な不安もおありでしょうが、教職員一同、子どもたちの心と体の健康を守ることを第一に取り組んでまいりますので、どうぞご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。

また、お子さまのことで気になることなどございましたら、どんなことでも結構ですので、いつでもご相談ください。



★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

●校長ミッション第3弾

「新型コロナウイルス感染拡大防止に関して、PCR 検査をもっと増やすべきか？」

A 君

自分の意見

自分はこのままでいいと思う。なぜかという検査機が増えとお金がかかるから。

B さん

自分の意見

PCR 検査を増やした方がいいと思う。なぜなら無症状感染者もいると思うので。理由：人が感染していることを知らず、買い物などに行くと、そこで感染拡大してしまうと思うので、増やした方がいい。

●校長ミッション第4弾

「もし、あなたがスーパーの店長なら、あなたの店で、どんな感染拡大防止対策をとりますか？ 思いつくままに、簡条書きで答えて下さい」

A 君

自分の意見

・物をラッピングする

・予約制にする

B さん

自分の意見

・出入り口に消毒液を置く

・お客さんにマスクをしてもらう

1家族で、は入れるのは2名までにする

C 君

自分の意見

マスクをつける(できるだけ再利用)

●校長ミッション第5弾

「家庭でできる感染防止対策についてあなたのアイデアを考えてみて下さい。できるだけたくさんアイデアを、箇条書きで答えて下さい」

A 君

自分の意見

・できるだけ接触しない

B さん

自分の意見

・買い物には家族で1人か2人だけでいく。

・マスクをつける

・人が良くさわりそうな場所は。(エスカレーターの持ち手)などはあまりさわらない

・さわってしまったらすぐ消毒する

●自主学習ノート

先日自主学習ノートを提出してくれた子のノートを見ると、種子島に漂着したポルトガル人が、鉄砲を日本人に紹介したとありました。そこで、校長先生からある質問をその子のノートの片隅に書きました。その質問とは、

★校長ミッション第6弾(新しいミッションの発動です)

種子島にやってきたポルトガル人は、どうやって日本人と会話したでしょうか？

その子は丁寧なお手紙の形で私にその答えを書いてきてくれました。さて、ほかのみなさんも考えて下さい。どうやって会話したでしょう。

こういった学びが【文科省の推奨している「深い学び」なのかなあ？】と校長先生なりに解釈しています。このミッションへの参加は自由です。提出も自由です。提出してみたい人は出してください。



★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

以前、砂漠ドライブについて紹介しましたが、今日はその中のプロのドライバーによるツアーの紹介をします。

アブダビやドバイから出発する砂漠ツアーがあります。日帰りのものや1泊するものまで方面や運営会社も含め様々なツアーがあります。予約は日本からできるものもあれば、現地で行うものもあります。現地で予約する場合は、空港やホテルのデスクにおいてあるパンフレットから予約するのが主です。

我が家では、日本からのお客さんが来たときなどに、何回か申し込んで参加しました。大抵の場合、参加者全員が満足できるような内容でした。プロのドライバーの運転で砂漠のドライブを体験できるのですが、それ以外にも、たくさんのプログラムがついています。ラクダに乗ったり、ヘンナ（日本でも紙染めの材料として使われている染料）で手や足に模様を描いてもらったり、鷹狩用の鷹を腕にのせてもらったり、サンドスキーやサンドボードを使って砂漠の斜面を滑り降りたり、水たばこを体験出来たり、お香の体験ができたり、ベリーダンスを見学出来たり体験出来たり、アラブの食事も食べられます。これらのプログラムが全てツアーの料金に含まれます。また、別料金を払えば、バギーを運転して自ら砂漠を走りまわられます。砂漠の様々な楽しみ方を半日でたくさん味わえるので、大人気のツアーです。

古城めぐりやオアシスめぐりを行うツアーもあります。古城といっても、たいていは砦のようなもので、姫路城や大阪城のような大きな規模のものではないことが多いです。日干し煉瓦という泥を混ぜて乾かして作ったレンガを積み重ねて建てられていて、劣化が進んでいるケースが多いです。

ところでオアシスを見たときに、日本人はどう感じるでしょうか。私の意見で恐縮ですがたぶんがっかりします。例えばアラブにも滝は存在します。しかし、それは日本にある那智の滝・白糸の滝・華厳の滝などの滝と比べたら、大抵の日本人はがっかりします。私が見たのは高さ2・3メートルぐらいで水量も爆発的ではなくさびしいものでした。オアシスといっても広大なものもあるのですが、大抵は小学校の池程度のものが多かったです。しかし砂漠を何日も旅してきたのどがカラカラに乾いた人にとっては、その水たまりのようなものが命を救う水だったのです。日本のように水資源が豊富な国の人にはわかりにくい命の瀬戸際の水ということで、ちょろちょろとした滝もアラブの人にとってはとてもありがたい存在で美しく見えたことでしょう。

考えてみたら人間は自分の置かれた状況から物を見る人が多いです。豊富に水を使える環境の中では、水を気楽に使うのが当たり前。食べ物が豊富な中では、便利さを優先して、大量の食べ物の廃棄が平気であったりと、感覚が鈍ってしまうことがあります。そういう自分の基準を改めて見直すことができるのが、異文化理解なのかもしれません。恥ずかしながら当初私が「なんだこのちっほけな滝は」と感じた滝を巡るツアーも、そういうことを感じさせてくれるツアーとして考えれば、十分有意義なツアーだったのかもしれない。

